

感受期【前期】（4歳から小1・2）

■ 感受期【前期】のねらいと実践事例一覧

段階	学年	幼児・児童・生徒が11年間で身に付ける資質・能力・態度			
		環境についての感受性 共生や思いやりの心	環境に対する見方・考え方		環境に働きかける 実践力
			環境に対する思考・表現 必要な技能	環境に対する気付き	
感受期 (前期)	小2 小1	○自然の事物や現象に親しみ触れ合う機会や場をより多く設定し、体験を通して自然に対する気付きを高める。			
	5歳児 4歳児	○自然の事物や現象に親しみ触れ合う機会や場をより多く設定し、感性を養う。			

●実践事例

No.	1	活動名	落ち葉やドングリで秋の自然を感じて（4歳児）	活動に要する期間	1週間程度
環境をとらえる視点			循環 多様性 生態系 共生 有限性 保全		
概要		FEEL ・ドングリや落ち葉などの秋の自然物にふれ合おう。	THINK・ACTION ・落ち葉やドングリを使った遊びを考えたり、遊ぶものを作ったりしよう。 ・身の回りの自然に進んで親しみ、生活に取り入れよう。		
No.	2	活動名	紙を大切に使いよう（4歳児）	活動に要する期間	1カ月程度
環境をとらえる視点			循環 多様性 生態系 共生 有限性 保全		
概要		FEEL ・絵を描いたり工作で使ったりするいろいろな紙の片付け方を考えよう。	THINK・ACTION ・いろいろな紙を無駄なく繰り返し使えるように工夫しよう。 ・紙だけでなく身近にある他の物も無駄なく繰り返し使おう。		
No.	3	活動名	ダンゴムシを育てよう（5歳児）	活動に要する期間	2週間程度
環境をとらえる視点			循環 多様性 生態系 共生 有限性 保全		
概要		FEEL ・園庭にいるダンゴムシを自分たちの手で育てよう。	THINK・ACTION ・長く飼うためにどうしたらよいか考えよう。 ・分かったことを身の回りにおける他の生き物を育てるときに生かそう。		
No.	4	活動名	アサガオとともだち（1年）	活動に要する時間	14時間程度
環境をとらえる視点			循環 多様性 生態系 共生 有限性 保全		
概要		FEEL ・自分の手でアサガオを育てよう。	THINK・ACTION ・花や葉、種、実や蔓を使って遊んだり工夫して作品を作ったりしよう。 ・学習を通して分かったことをこれからの生活に生かそう。		
No.	5	活動名	うごくおもちゃを作ろう（2年）	活動に要する時間	9時間程度
環境をとらえる視点			循環 多様性 生態系 共生 有限性 保全		
概要		FEEL ・牛乳パックや段ボール等から動くおもちゃを作ろう。	THINK・ACTION ・動くおもちゃを作る材料として、再利用して使える身の回りのものを探そう。 ・身近にある物を繰り返し使ったり無駄なく使ったりしよう。		
No.	6	活動名	土ってふしぎだね（2年）	活動に要する時間	16時間程度
環境をとらえる視点			循環 多様性 生態系 共生 有限性 保全		
概要		FEEL ・野菜を工夫して育てよう。	THINK・ACTION ・土作りをして、春植え野菜を育てよう。 ・土にパンやトマト、ポリエチレン袋等を埋め、土の不思議について考えよう。 ・土の不思議さや素晴らしさ、働きを生かして、秋植え野菜を育てよう。		
No.	7	活動名	“ごみ”から作ろう（小学校特別支援学級）	活動に要する時間	10時間程度
環境をとらえる視点			循環 多様性 生態系 共生 有限性 保全		
概要		FEEL ・ごみを使って作ってみよう。 牛乳パック→はがき、食用油→ろうそく 生ゴミ→堆肥	THINK・ACTION ・資源ごみの分別をしよう。 ・リサイクルについて知り、ものを大切に扱おう。		

## 1 「落ち葉やドングリで秋の自然を感じて」

## 1 ねらい

- (1) 近くの公園や小学校に行ってドングリや落ち葉を拾い集めたり、触れたりする活動を通して、秋の自然に触れ、季節の移り変わりや自然のすばらしさを実感する心を育む。
- (2) 身の回りの自然の中で、落ち葉やドングリを使った遊びを自分なりに考えたり、遊ぶものを作ったりして、自然に関わりながら遊ぶ。

## 2 評価の視点

評価の視点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドングリや落ち葉を拾い集めたり、触れたりすることに興味・関心をもち、自分から関わろうとする。</li> <li>・ 身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。</li> </ul>
見方・考え方 環境に対する	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドングリや落ち葉を集めたり触れたりする活動を楽しむ。</li> <li>・ 近くの公園や小学校で拾い集めたドングリや落ち葉を使った遊びを自分なりに考えたり、遊びに使うものを作ったりする。</li> <li>・ 気付いたことや感じたことを話したり、動きで表現したりする。</li> </ul>
	環境に対する 気付き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な自然や季節の移り変わりを感じることから、自然の不思議さや面白さに気付く。</li> <li>・ 身近な自然を大切にしたい気持ちをもつ。</li> </ul>
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りにある自然に関わりながら、身近な植物の生命を感じ、自然に親しみをもって接する。</li> </ul>

## 3 指導計画【1週間程度】

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
F E E L	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近くの公園や小学校に落ち葉やドングリ集めに行く。 ドングリが落ちていることに気付き拾って集め始める。</li> <li>○ 秋になって色づいた葉や落ち葉に気付く。 また、いろいろな形や大きさのドングリがあることに気付く。</li> <li>○ さらに様々なところへ行って落ち葉やドングリを集める。</li> <li>○ 拾った落ち葉やドングリを教師に見せる。</li> <li>○ 家の近くや通園時、園庭で見る落ち葉や秋の草木のことを思い出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 一年を通して継続的に同じ公園や小学校に行き、季節の移り変わりに気付くことができるようにする。</li> <li>◇ 公園や小学校への下見では、気付かせたい秋の草木や、ドングリが拾える場所などを調べておく。</li> <li>◇ 幼児が活動できる時間帯や場所などについて事前に依頼し、小学校との連携を図る。</li> <li>◇ 「いろいろな色があるんだね。」などと一緒に落ち葉やドングリを拾い、落ち葉の色やドングリの形や大きさが様々であることに気付かせる。</li> <li>◇ 「すごいね。」などと幼児の喜びや発見を共感的に受け止める。</li> <li>◎ ビニール袋を大中小と数種類用意し、自分に必要な量を集められるようにする。</li> </ul> <p>◆【環境についての感受性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドングリや落ち葉を拾い集めたり、触れたりすることに興味・関心をもち、自分から関わろうとする。</li> </ul> <p>◆【共生や思いやりの心】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。</li> </ul>

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
T H I N K ・ A C T I O N	<p>○ 拾ってきたドングリや落ち葉を自分なりに工夫して、着るものや冠作りをする。</p> <p>○ 小さな箱の中に仕切りを作り、ドングリが転がる道を考える。(ドングリゲーム)</p> <p>○ 落ち葉のプールで落ち葉の感触を味わいながら寝たり、落ち葉を上へ放り投げたり、かけ合ったりして遊ぶ。</p> <p>○ ドングリや落ち葉で遊んだことを思い出し、さらに着るものの飾りを増やしてお姫様ごっこをしたり、新しいドングリゲームに挑戦したり、プールの落ち葉で新しいごっこ遊びをしたりする。</p> <p>○ 園庭に落ちている秋の草木や落ち葉を使って自分なりに工夫したり、遊んだりする。</p>	<p>◎ カラーポリエチレン袋を3か所切って、穴を開けて着られるようなものや冠の土台を用意しておく。</p> <p>◇ 「わあ、きれい。」「どんなふうにつけたの？」と大きく驚いて共感したり問いかけたりする。</p> <p>◇ 幼児が扱いやすい大きさや重さの箱を保護者に依頼して集めておく。</p> <p>◎ 製作コーナーに空箱や仕切りを作る厚紙、のり、はさみなどを用意しておく。</p> <p>◎ 移動式のプールに集めた落ち葉を入れておき、自由に遊べるようにしておく。</p> <p>◇ 幼児の発想や工夫を認め、意欲を高める。</p> <p><b>◆【環境に対する見方・考え方】</b> 〈思考・表現、必要な技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドングリや落ち葉を集めたり触れたりする活動を楽しむ。</li> <li>・ 近くの公園や小学校で拾い集めたドングリや落ち葉を使った遊びを自分なりに考えたり、遊びに使うものを作ったりする。</li> <li>・ 気付いたことや感じたことを話したり、動きで表現したりする。</li> </ul> <p>〈気付き〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な自然や季節の移り変わりを感じることから、自然の不思議さや面白さに気付く。</li> <li>・ 身近な自然を大切にしたい気持ちをもつ。</li> </ul> <p>◎ その日の活動に応じて園庭に落ちている落ち葉を、あえてそのままにしておく。</p> <p><b>◆【環境に働きかける実践力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りの自然に関わりながら、身近な植物の生命を感じ、自然に親しみをもって接する。</li> </ul>

#### 4 単元の評価規準

- (1) ドングリや落ち葉を集めたり触れたりする活動を通して、発見を楽しんでいる。
- (2) 自分で拾ったドングリや落ち葉を遊びに生かしたり、それを使って自然と関わったりしている。

## 2 「紙を大切に使う」

## 1 ねらい

- (1) 絵を描いたり工作で使ったりしたときの残り紙やいろいろな種類の紙の片付け方を考えることを通して、ものを無駄なく大切にしようとする心を育む。
- (2) いろいろな紙を無駄なく繰り返し使えるように工夫することを通して、ものには限りがあることを実感し、大切さに気付く。

## 2 評価の視点

評価の視点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊んだ後に残った紙の切れ端やまだ使える紙の片付け方に興味・関心を持ち、自分から片付けようとする。</li> <li>・ 身の回りにあるものを大切にしようとする気持ちをもつ。</li> </ul>
見方・考え方 環境に対する	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊んだ後に残った紙の切れ端やまだ使える紙の片付け方を工夫することを通して、いろいろな紙を無駄なく繰り返し使えるよさを発見する。</li> <li>・ 気付いたことや感じたことを話したり、表現したりする。</li> </ul>
	環境に対する 気付き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りにある紙を無駄なく繰り返し使う工夫から、もの大切さに気付く。</li> </ul>
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近にある物を繰り返し使ったり無駄なく使ったりするなど、ものを大切ににする。</li> </ul>

## 3 指導計画【1カ月程度】(2学期後半)

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
F E E L	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 製作コーナーで絵を描いたり、製作をしたりした後に片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のクレパスやハサミは引き出しにしまう。</li> <li>・ いらない紙をリサイクルボックスに入れる。</li> <li>・ まだ使っていない紙は、製作コーナーの棚に戻す。</li> </ul> </li> <li>○ 一部使った紙や切れ端の紙でまだ使えるものをリサイクルボックスに入れようとして迷う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 「紙はどこに片付けようか。」と問いかけ、自分たちで片付け方やルールを考えさせる。</li> <li>◎ 製作コーナーの横に段ボール箱の「リサイクルボックス」を常に置いておく。</li> <li>◇ 捨てるのはもったいないという幼児の気付きを受け止め、ものへの接し方を感じていくことができるようにする。</li> <li>◆【環境についての感受性】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊んだ後に残った紙の切れ端やまだ使える紙の片付け方に興味・関心を持ち、自分から片付けようとする。</li> </ul> </li> <li>◆【共生や思いやりの心】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りにあるものを大切にしようとする気持ちをもつ。</li> </ul> </li> </ul>

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
THINK・ACTION	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「それまだ使えるよ。」「捨てたらもったいないんじゃない。」と言う幼児がいる。</li> <li>○ 「先生、この紙捨てたらもったいないよね。」と教師に確認に来る。</li> <li>○ 箱に気付いた幼児が、「ここに入れればいいんじゃない。」と教える。</li> <li>○ 「もったいないボックスだ。」「もったいないボックスだ。」と言いながら紙をその中に入れる。</li> <li>○ カードを作ったり製作したりするときには、「もったいないボックス」から紙を選んで使う。</li> <li>○ 紙を片付けるときは、「リサイクルボックス」か「もったいないボックス」かを考えて入れるようになる。</li> <li>○ 家で絵を描いたりものを作ったりした後も、同じように紙を無駄なく繰り返し使う。</li> <li>○ 身の回りの廃材や空箱、カップなどをすぐ捨てずに考えて使うなど、ものを大切にするようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 幼児同士で解決していく様子を見守り、必要に応じて助言する。</li> <li>◎ 片付けをする時に運んだり持ち上げたりするのに扱いやすい大きさの箱をいくつか用意しておく。</li> <li>◇ 幼児の言葉に共感し、工夫を受け止め、片付けへの意欲を高める。</li> </ul> <p>◆【環境に対する見方・考え方】        〈思考・表現、必要な技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊んだ後に残った紙の切れ端やまだ使える紙の片付け方を工夫することを通して、いろいろな紙を無駄なく繰り返し使えるよさを発見する。</li> <li>・ 気付いたことや感じたことを話したり、表現したりする。</li> </ul> <p>〈気付き〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りにある紙を無駄なく繰り返し使う工夫から、もの大切さに気付く。</li> </ul> <p>◆【環境に働きかける実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近にある物を繰り返し使ったり無駄なく使ったりするなど、ものを大切にする。</li> </ul>

#### 4 単元の評価規準

- (1) 遊んだ後に残った紙の切れ端やまだ使える紙の片付け方に興味をもち、自分から関わろうとしている。
- (2) 紙の片付け方やルールについて考えるとともに、身の回りのものを無駄なく繰り返し使うことのよさを味わおうとしている。

## 3 「ダンゴムシを育てよう」

## 1 ねらい

- (1) 園庭にいるダンゴムシを集めたり、ダンゴムシに触ったりする活動を通して、身近な自然環境に対する感受性と自然や生命のすばらしさに感動できる心を育む。
- (2) ダンゴムシを長く飼う方法を自分なりに考えながら世話をすることを通して、身近な生き物を大切にすることを大切にする気持ちをもつ。

## 2 評価の視点

評価の視点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園庭にいるダンゴムシに興味・関心をもち、自分から関わろうとする。</li> <li>・ 身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。</li> </ul>
方 ・ 考 え 方	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダンゴムシを見付けたり触れたりする活動を楽しむ。</li> <li>・ ダンゴムシを長く飼う方法を図鑑で調べたり自分なりに考えたりして、世話を する。</li> <li>・ 気付いたことや感じたことを話したり、動きで表現したりする。</li> </ul>
	環境に対する 気付き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な生き物の様子から、自然の不思議さや面白さに気付く。</li> <li>・ 身近な生き物を大切にしようとする気持ちをもつ。</li> </ul>
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダンゴムシを見る、飼うなどの活動を通して、身近な生き物の生命を感じたり、 親しみをもって接したりする。</li> </ul>

## 3 指導計画【2週間程度】

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
F E E L	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園庭にいるダンゴムシを探しに行く。</li> <li>○ ダンゴムシを見つけたことを教師や友達に知らせたり、見せにきたりする。</li> <li>○ ダンゴムシに指で触ることを通して、様々なことに気付く。 例： 触れると丸まる。 足がたくさんある。 背中に模様がある。 等</li> <li>○ ダンゴムシを集める。</li> <li>○ ダンゴムシのよくいる場所を教師や友達に知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ ダンゴムシやアリ、ミミズなど、園庭にいる生き物に触れる機会を1年間を通して、設定する。</li> <li>◇ 「ほんとうだ！」と幼児の気付きを認め、幼児の言葉を繰り返す。</li> <li>◇ 幼児が様々な特徴に気付けるように言葉をかける。</li> <li>◇ 「すごいね。」と幼児の喜びや発見を共感的に受け止める。</li> <li>◎ プリンカップをいくつか用意しておき、ダンゴムシを集められるようにする。</li> <li>◆【環境についての感受性】</li> <li>・ ダンゴムシを集めたり、実際に触れたりすることに興味・関心をもち、自分から関わろうとする。</li> <li>◆【共生や思いやりの心】</li> <li>・ 身の回りに生きている生き物や命の大切さに気付く。</li> </ul>

	予想される幼児の活動	◇保育者の援助 ◎環境の構成 ◆評価の視点
T H I N K ・ A C T I O N	<p>○ 集めてきたダンゴムシの飼い方を話し合う。</p> <p>○ 餌をあげたり、観察したりして、ダンゴムシの世話をする。</p> <p>○ ダンゴムシを家に持ち帰り、自分で世話をしようとする。</p> <p>○ 園庭や家のそばで見付けた生き物に触れたり、その生き物の世話をしたりする。</p> <p>例:カマキリ カタツムリ アオムシ                    等</p>	<p>◎ ダンゴムシを扱った絵本を読み聞かせたり、部屋に置いたり一緒に図鑑で調べたりして、興味・関心をもたせる。</p> <p>※参考図書 「ころちゃんはだんごむし」(高家博成作・仲川道子絵) 「やあ、出会えたね! ダンゴムシ」(今森光彦文・写真) 「ダンゴムシ そらをとぶ」(松岡達英作・絵) など</p> <p>◇ 「ダンゴムシはどんなところにいたかな。」と問いかけ、どうしたら飼うことができるか気付かせていく。</p> <p>◇ 幼児の言葉に共感し、工夫を受け止め、意欲を高める。</p> <p>◇ 家で飼いたいという幼児には、寒くなる前にダンゴムシをいた場所に返すことの大切さも知らせていく。</p> <p>◆【環境に対する見方・考え方】 (思考・表現、必要な技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダンゴムシを見付けたり触れたりする活動を楽しむ。</li> <li>・ ダンゴムシを長く飼う方法を自分なりに考えたり、図鑑で調べたりして世話をする。</li> <li>・ 気付いたことや感じたことを話したり、絵にかいたり動きで表現したりする。</li> </ul> <p>(気付き)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な生き物の様子から、自然の不思議さや面白さに気付く。</li> <li>・ 身近な生き物を大切にしようとする気持ちをもつ。</li> </ul> <p>◆【環境に働きかける実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダンゴムシを見る、飼うなどの活動を通して、身近な生き物の生命を感じたり、親しみをもって接したりする。</li> </ul>

#### 4 単元の評価規準

- (1) 身近な生き物に関心を持ち、自分から関わるとともに、生命のすばらしさや不思議さに感動し、生きている仲間として大切にしようとしている。
- (2) ダンゴムシを見る、世話をする、育てるなどの活動を通して発見を楽しみ、気付いたことや感じたことを話したり、絵や動きなどで表現しようとしていたりしている。

## 4 「アサガオとともだち」

## 1 単元の目標

- (1) 2年生からもらった種からアサガオを自分で育てる活動を通して、自然の不思議さや面白さに気づき、命や自然を大切にすることができるようにする。
- (2) アサガオの花や葉、蔓、種などを使って遊んだり、それらを使ってプレゼントや作品を作ったりすることを通して、身近な人々や自然と関わり、親しむことができるようにする。

## 2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生からもらった種からアサガオを育てる活動に興味・関心をもち、自分から関わろうとする。</li> <li>身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。</li> </ul>
見 環 方 境 ・ 対 考 対 え する 方	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>アサガオの花や葉、蔓を使った遊びや身近な人へのプレゼントを自分なりに考えたり、工夫したりする。</li> <li>気付いたことや感じたことを言葉や絵などで表現する。</li> </ul>
	環境に対する 気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>アサガオの世話を続け、成長の変化を通して、自然の不思議さやおもしろさに気付く。</li> <li>身近な自然や人々との関わり楽しさに気付く。</li> </ul>
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの生活が自然と関わっていることに気づき、身近な生き物や自然を大切にしようとする。</li> </ul>

## 3 単元計画【全14時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	<b>【4月：2時間】</b> ○ アサガオのたねをまこう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>2年生からもらったアサガオの種のプレゼントを思い出す。</li> <li>土づくりをし、鉢に土を入れる。</li> <li>種を植え、周りに肥料を入れる。</li> </ul>	◇ アサガオの種をもらった時の気持ちを振り返り、意欲付けをする。 ◇ 土をこぼさないように少しずつ鉢に入れるよう助言する。 ◇ 深さ2cmぐらいの穴を開けて種をまくよう指導する。
	<b>【5月～9月：7時間】</b> ○ アサガオをそだてよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>アサガオの新しい発見をする。</li> <li>双葉、本葉、蔓、花を観察し、観察カードにかく。</li> <li>アサガオの世話をする。</li> <li>しおりを作る。</li> <li>たたき染めをする。</li> <li>色水遊びをする。</li> </ul>	◇ 気が付いたことを話し合う場を設定し、アサガオに関する発見を大切にする。 ◇ アサガオの生長に伴い、双葉、本葉、蔓、花の様子を観察するよう声をかける。 ◇ アサガオのつるの巻きつけ方、誘引の仕方を指導する。 ◇ アサガオがよく育つために、水あげの仕方、追肥の仕方について指導する。
	①	◆【環境についての感受性】
	②	・ アサガオを育てる活動や春から夏への変化に興味・関心をもち、自分から関わろうとする。
	③	◆【共生や思いやりの心】
	④	・身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。
	⑤	
	⑥	
	⑦	
⑧		
⑨		

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
THINK・ACTION	<p>【10月～12月:5時間】</p> <p>○ つくってあそぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アサガオのリースを作る。</li> </ul> <p>○ 新1年生へのプレゼントをつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年生からプレゼントをもらった時の気持ちを思い出す。</li> <li>プレゼント作りをする。 夏に作ったしおりをプレゼントにしてもよい。 種ふくろを作り、種を入れる。 2年生になってから、新1年生への手紙を書く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【その他の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい給食会でのプレゼント作り (お世話になっている地域の方々へ)</li> <li>近くの商店街への鉢植え植物を贈る活動 など</li> </ul> </div> <p>○ あきさがしをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最近のアサガオの変化を見付ける。 夏から秋への変化について発表する。</li> <li>秋をさがしに行く。 春に行った公園に出かける計画を立てる。 校庭や公園で秋を見付け、集める。</li> <li>秋の公園の様子をまとめる。</li> <li>校庭や近くの公園にある植物についても、自分たちが一生懸命育てたアサガオと同じように命があることに気付き、大切にす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リースの見本を見せ、意欲付けする。</li> <li>どんなリースを作るか計画できるよう、計画カードを用意する。</li> <li>作る途中で茎を切らないように助言する。</li> <li>プレゼントされている時の写真を提示し、興味付けをする。</li> </ul> <p>◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・表現、必要な技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アサガオの花や葉、蔓を使った遊びや身近な人へのプレゼント作りを自分なりに考えたり、工夫したりすることを通して、自然に親しむ。</li> <li>気付いたことや感じたことを言葉や絵などで表現する。</li> </ul> <p>〈環境に対する気付き〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アサガオや自然のものを使って遊んだりプレゼント作りをしたりすることを通して、自然の不思議さや面白さに気付く。</li> <li>身近な自然や人々と関わり、自分のよさや可能性に気付く。</li> </ul> <p>◆【環境についての感受性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アサガオを育てる活動や夏から秋への変化に興味・関心をもち、自分から関わろうとする。</li> </ul> <p>◆【共生や思いやりの心】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。</li> </ul> <p>◆【環境に働きかける実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの生活が自然と関わっていることに気付き、身近な生き物や自然を大切にす</li> </ul>

#### 4 単元の評価規準

- (1) アサガオを育てる活動に興味・関心をもって関わり、身の回りにある自然の不思議さや面白さ、命の大切さに気付いている。
- (2) アサガオを使った遊びや身近な人へのプレゼントを自分なりに考えたり、工夫したりしている。

## 5 「うごくおもちゃを作ろう」

## 1 単元の目標

- (1) 身の回りにある不要になった牛乳パックや段ボールを再利用して動くおもちゃを作ることを通して、ものを無駄なく大切に使いおおうとすることができるようにする。
- (2) 動くおもちゃを作る材料として、再利用して使える身の回りのものを探すことを通して、もの大切さに気付くことができるようにする。

## 2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動くおもちゃの材料として、再利用して使える身の回りのものを探すことに興味・関心を持ち、自分から廃品を利用したおもちゃを作ろうとする。</li> <li>・ 身の回りにあるものを大切にしようとする気持ちをもつ。</li> </ul>
見方・考え方 環境に対する	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りの不要になったものを使って、自分なりに工夫しておもちゃを作ることを通して、再利用する大切さに気付く。</li> <li>・ 気付いたことや感じたことを言葉や動作などで表現する。</li> </ul>
	環境に対する 気付き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りのものを再利用して動くおもちゃを工夫して作ることを通して、再利用することは資源を大切にすることであることに気付く。</li> <li>・ 感じたことや気付いたことを基に、自分たちの生活を工夫する。</li> </ul>
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近にあるものを繰り返し使ったり無駄なく使ったりするなどして、ものを大切にしようとする。</li> </ul>

## 3 単元計画【全9時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L ①	<p>○ どんなおもちゃを作るか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな手作りおもちゃで遊ぶ。</li> <li>・ 自分の動くおもちゃを作るために、家にある牛乳パックや段ボールなど、身の回りにある不要になった物から材料集めをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 動くおもちゃの見本をいくつか提示し、おもちゃ作りの意欲付けをする。</li> <li>◇ 次時に向け、自分の作りたいおもちゃを決めておく。自分で作りたいおもちゃがある児童は自由に作ってもよいことにする。</li> <li>◆【環境についての感受性】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動くおもちゃの材料として、再利用して使える身の回りのものを探すことに興味・関心を持ち、自分から廃品を利用したおもちゃを作ろうとする。</li> </ul> </li> <li>◆【共生や思いやりの心】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもちゃの材料集めをすることを通して、身の回りにあるものを大切にしようとする気持ちをもつ。</li> </ul> </li> </ul>

	時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
T H I N K ・ A C T I O N	② ③ ④	<p>○ 自分だけのうごくおもちゃを作ってあそぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が作りたいうごくおもちゃの設計図（計画書）を作る。</li> <li>ふうせんくじら（風）・牛乳パックのボート（水）・レーシングカー（ゴム）・さかなつり（磁石）・ことことねずみ（おもり）などのおもちゃを作る。</li> <li>設計図に近付くような材料を選んで、形や大きさを工夫する。</li> <li>クレヨンやマジック等で色や模様を付ける。</li> <li>おもちゃがよく動くようにさらに工夫する。</li> <li>作ったおもちゃで遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 動くおもちゃの設計図を描くワークシートを準備する。</li> <li>◇ はさみや段ボールカッターなど、道具の使い方について安全面に配慮し指導する。</li> <li>◇ 製作に戸惑っている児童には、家から持ってきたものをどう生かしたいのか聞き取り、助言する。</li> <li>◇ 穴を開けにくいプラスチック製のものや分厚い材質のものを材料としている児童の作業を手伝う。</li> </ul> <p>◆【環境に対する見方・考え方】</p> <p>〈思考・表現、必要な技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りの不要になったものを使って、自分なりに工夫しておもちゃを作ることを通して、その面白さや自然の不思議さに気付く。</li> <li>・ 気付いたことや感じたことを言葉や動作で表現する。</li> </ul>
	⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	<p>○ 「おもちゃ広場」の計画をたてよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊びのグループごとに、どんな広場にするか話し合う。</li> <li>遊びのルールを決める。</li> <li>おもちゃを改良して、遊びをひろげる。</li> <li>・</li> </ul> <p>○ 「おもちゃ広場」であそぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールに従って楽しく遊ぶ。</li> </ul> <p>○ まとめをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を振り返り、自分や友達の工夫に気付く。</li> <li>・ 作ったおもちゃの工夫を発表する。</li> <li>・ 身の回りのものを使って別のおもちゃを作る。</li> </ul>	<p>〈環境に関する気付き〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りのものを再利用して動くおもちゃを作ることを通して、ものを大切にすることに気付く。</li> <li>・ 感じたことや気付いたことを基に、自分たちの生活を工夫する。</li> </ul> <p>◆【環境に働きかける実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近にある物を繰り返し使ったり無駄なく使ったりするなど、ものを大切にしようとする。</li> </ul>

#### 4 単元の評価

- (1) 動くおもちゃの材料として、再利用して使える身の回りのものを探すことに興味・関心をもって関わり、身の回りにあるものの大切さに気付いたり、自然環境を大切にしたい思いをもったりしている。
- (2) 身の回りのものを使って、動くおもちゃ作りを自分なりに考えたり、工夫したりしている。
- (3) 身の回りにある再利用できるものを使って動くおもちゃを作ることから、もの大切さに気付いている。

## 6 「土ってふしぎだね」

## 1 単元の目標

- (1) 野菜を育てることを通して、自然の不思議さや面白さに気付き、命や自然を大切にしようとするができるようにする。
- (2) 土の中の様子を調べることを通して、土には植物が育つために必要な栄養や水を蓄えるなどの様々な力があり、養分を多く含んだ豊かな土が植物の生長に必要なことに気付くことができるようにする。

## 2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜を育てる活動や土作りに興味・関心をもち、自分から関わろうとする。</li> <li>身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。</li> </ul>
見方・考え方 環境に対する	環境に対する 思考・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>土作りをしたり、野菜の世話や観察を行ったりすることを通して、身近にある自然に親しみをもって継続して関わろうとする。</li> <li>土作りや野菜の観察をして気付いたことや感じたことを言葉や絵などで表現する。</li> </ul>
	環境に対する 気付き	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉢植えと花壇で育てた野菜の成長の違いや土の中の様子を観察することを通して、自然の不思議さや面白さに気付く。</li> <li>身近な自然と関わり、それらが生命をもっていること、変化や成長していることに気付く。</li> </ul>
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの生活が自然と関わっていることに気付き、身近な生き物や自然を大切にする。</li> </ul>

## 3 単元計画【全16時間程度】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	<p>○ はるうえやさいをそだてよう。【5月】</p> <p>① 春植え野菜はミニトマト、ピーマン、ナス、オクラ、エダマメなどとする。</p> <p>② 土作りをする。</p> <p>③ 腐葉土、黒土、前年度の土を入れて土を作る。</p> <p>④ 苗の植え方を知り、植える。</p> <p>⑤ 継続して世話をする。</p> <p>⑥ 成長の様子を調べ、観察カードに記録する。</p> <p>⑦ 収穫する。</p>	<p>◇ 春植え野菜は一人一鉢用意し、自分の春植え野菜に継続的に関わることができるようにする。</p> <p>◇ 育てた野菜は収穫して食べることを知らせ、春植え野菜の成長に楽しみをもたせる。</p> <p>◇ 年間通して観察記録するカードを用意する。</p> <p>◆【環境についての感受性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野菜を育てる活動や土作りに興味・関心をもち、自分から関わろうとする。</li> </ul> <p>◆【共生や思いやりの心】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにある自然のすばらしさや不思議さを実感し、命の大切さに気付く。</li> </ul>

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
THINK・ACTION ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯	<p>○ 土ってふしぎだね。</p> <p>【6月】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土に給食の残菜など食べられるものと、ポリエチレン袋など食べられないものとを埋める。</li> <li>土の中に埋めたものがどうなるか予想する。</li> <li>鉢植えと花壇で育てた野菜の育ち方を比べて気付いたことを発表する。</li> </ul> <p>【9月】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土の中に入れたものを掘り返す。</li> <li>気付いたことを観察カードに記録する。</li> </ul> <p>○ あきうえやさいをそだてよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋植え野菜は、ハツカダイコン、コマツナ、アブラナなどとする。</li> <li>育てる野菜について話し合い、種をまく。</li> <li>継続して世話をする。</li> <li>成長の様子を調べ、観察カードに記録する。</li> <li>収穫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土に入れたものを3カ月後に掘り返すことを伝え、興味を持続させる。</li> <li>土に入れる前に、給食の残菜やポリエチレン袋を画像に残しておき、掘り返した時に提示して比較できるようにする。</li> <li>児童の予想をカードに記録させておき、土を掘り返した時に再度提示して比較できるようにする。</li> <li>土にかえるものとそうでないものがあることや、栄養豊かな土が植物の成長に必要であることにつながる児童の気付きを紹介する。</li> </ul> <p>◆【環境に対する見方・考え方】 〈思考・表現、必要な技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土作りをしたり、野菜の世話や観察を行ったりすることを通して、身近にある自然に親しみをもって継続して関わろうとする。</li> <li>土作りや野菜の観察をして気付いたことや感じたことを言葉や絵などで表現する。</li> </ul> <p>〈環境に対する気付き〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉢植えと花壇で育てた野菜の生長の違いや土の中の様子を観察することを通して、自然の不思議さや面白さに気付く。</li> <li>身近な自然と関わり、それらが生命を持っていること、変化や成長していることに気付く。</li> </ul> <p>◆【環境に働きかける実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの生活が自然と関わっていることに気付き、身近な生き物や自然を大切にすること。</li> </ul>

#### 4 単元の評価規準

- ミニトマトや秋植え野菜を育てる活動に興味・関心をもって関わり、身の回りにある自然の不思議さや面白さ、命の大切さに気付いている。
- 鉢植えと花壇で育てた野菜の成長の違いや土の中の様子を観察することを通して、土には植物が育つために必要な栄養や水を蓄えるなどの様々な力が働き、養分を多く含んだ豊かな土が植物の成長に必要であることに気付いている。
- 野菜を育てることや土の中の観察を通して、自分たちの生活が自然と関わっていることに気付いている。

## 7 「“ごみ” から作ろう！」

### 1 単元目標

- (3) 不要になったものを再資源化、再利用することを体験する。  
再資源化、再利用することを通して、ものを無駄なく、大切に使う心と心を育む。
- (4) ものづくりの体験を通して、不要なものにも再利用できるものが沢山あることに気づき、資源ごみを分別して捨てるようにする。

### 2 評価の観点

評価の観点		内 容
環境についての感受性 共生や思いやりの心		<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの物を再利用することに興味・関心をもち、様々なものづくりをしようとする。</li> <li>身の回りにあるものを大切にしようとする気持ちをもつ。</li> </ul>
見方・考え方 環境に対する	環境に対する 思考・判断・表現 必要な技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの不要になったものを使って、様々なものを作る。</li> <li>資源ごみを分別する。</li> </ul>
	環境に対する 気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの物を再利用して様々なものを作ることを通して、再利用することはごみを減らしたり、生活に役立てたりできることに気付く。</li> </ul>
環境に働きかける実践力		<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの物を繰り返し使ったり無駄なく使ったりするなど、ものを大切にしようとする。</li> <li>資源ごみを分別して捨てるようにする。</li> </ul>

### 3 指導計画【全10時間】

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
F E E L	<p>“ごみ”を使って作ってみよう</p> <p>○ ペットボトルで楽器を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペットボトルにビーズや石を入れてオリジナル楽器を作成する。</li> </ul> <p>① 家から飲み終わったペットボトルを持ってくる</p> <p>② ペットボトルに中身を入れる (ビーズ・小石・米・鈴)</p> <p>③ ペットボトルに飾りをつける (シール・ラミーテープ・マジック)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>変身ボックスを通して、ペットボトルが楽器になったことを確認する。 (音楽で使用して、演奏する。)</li> </ul>	<p>特別支援学級の発達段階として、ゴミを減らしたいとの問題意識から解決のために工夫して活動するのではなく、活動を通してリサイクルの“楽しさ”や“良さ”を感じて、実生活で分別をしてリサイクルを行おうとする態度を育てていくことが適していると考え、左のように構成した。</p> <p>◇ 全活動で、変身ボックスを用いて“ごみ”→“使えるもの”という型にはめることで、リサイクル・リユースを分かりやすくする。</p>
	時	<p>変身ボックスについて： 活動することで、ごみを使える物に変身させられる事を意識させることで、同じように収集された資源ごみが工場に変身できることにつなげられるよう利用した。</p>

	<p>③ ○ 牛乳パックはがきを作ろう。</p> <p>④ ・ 牛乳パックを利用して、年賀はがきを作る。</p> <p>⑤ ①家から飲み終わった牛乳パックを持ってくる。 ①牛乳パックを水につける。 ②ビニールとパルプ紙をはがして分ける。 ③パルプ紙を小さくちぎる。 ④ちぎったパルプ紙に水を加えてミキサーにかける。 ⑤紙すきをする。 ⑥飾りを配置する。 ⑦布ごと紙を干す。</p> <p>・ 変身ボックスを通して、牛乳パックがはがきになったことを確認する。 ※変身ボックス・用具を借りることが可能。 (生活単元学習・年末年始の学習ではがきを使用して年賀状を書く。)</p> <p>○ 食用油からろうそくを作ろう。</p> <p>・ 使用済みの油を利用してろうそくを作る。 ①食用廃油と、クレヨン、油凝固剤を湯煎しながら混ぜる。 ②芯を真ん中に垂らした容器に流し入れる。 ③冷やして固める。</p> <p>⑧ ・ 変身ボックスを通して、使用済みの油がろうそくになったことを確認する。 ⑨ (生活単元学習・誕生会の学習で/家で使用する。) ※環境教育プログラム No. 11 参照</p> <p>○ 生ゴミからたい肥を作ろう。</p> <p>・ 生ゴミを土にまぜ、野菜畑用堆肥を作る。 ①生ゴミをプランターに米ぬかと共に埋める ②1週間ほどまったら、土をかき混ぜる</p> <p>・ 変身ボックスを通して、生ゴミが堆肥になったことを確認する。 (生活単元学習・栽培の学習で堆肥を使用して畑づくりをする。) ※環境教育プログラム No. 48、49 参照</p>	<p>◆【環境についての感受性】ごみ(使用済みのもの)もすぐに捨ててしまうのではなく、作り直したり、飾ったりして使ってみようとするができる。</p> <p>◆【共生や思いやりの心】身の回りのものを大切にしようとする気持ちをもつ。</p> <p>◆【環境に対する見方・考え方】 (思考・表現・必要な技能) ・ 自分の生活と環境に与える影響とを関連付けて考えることができる。 ・ 教師の説明に沿って活動し、課題の物を作ることができる。 ※感受期前半の児童が対象であるため、児童の実態に応じてねらいを選択していく。</p> <p>(気付き) ・ “ごみ”といわれる物でも、作り直したり、使い方を変えることで、自分たちの生活に役立ったり、ゴミを減らすことができることに気付く。</p>
THINK・ACTION	<p>⑩ “ごみ”を作りかえてもらおう。</p> <p>○ 資源ごみを分別しよう。</p> <p>・ 資源ごみを分別する。</p> <p>・ 変身ボックスを通して、分別された資源ごみが、他のものに作りかえられて再利用されていることを知る。</p> <p>・ これらのことを“リサイクル”ということを知る。 (「未来へ1」P20の写真や「未来へ2」P19の絵が利用できる。)</p>	<p>◇ 資源ごみのマークに着目させ、分別させる。</p> <p>◇ 4つ活動で使用してきた変身ボックスを利用し、資源ゴミがリサイクルされていることを感じさせる。</p> <p>◆【環境に働きかける実践力】資源ゴミも、工場等で作り替えられ、実際に使われていることを知り、リサイクルのために分別してゴミを捨てようとするができる。</p>

#### 4 単元の評価

- (3) 不要なものを使用して、自分なりに物づくりをすることができたか。
- (4) 資源ごみを分別して捨てることができたか。
- (5) 不要なもの、資源ごみも“他のものに変身”することで、再利用できることを理解し、ものを大切に扱おうとすることができたか。